

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

定時制の課程である特性を生かし、地域の教育コミュニティへの参画と活性化を図り、自他の権利や生命を大切にすることをはぐくみ、安全で安心な学びの場を提供する。また、夢や志を抱き、人生を切り拓くチカラを育成する。

- 1 生涯にわたって豊かな生活を築くため、「知識・技能」を修得し、「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、個々のニーズに応じた教育を展開する。
- 2 自己肯定感、自他を思いやる人間性を育成し、互いに違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- 3 地域社会に貢献できる多様な人材を、様々な体験的活動や外部人材の活用を通じ育成する。

2 中期的目標

1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現

- (1) 「グローバル化」や「情報化」など社会の変化に対応した学習の形態を実施し、生徒の能力・適性・興味・関心に応じた授業展開を行う。
- (2) 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育むため、生徒の実態に合わせた体験活動やICT等の活用により「主体的・対話的で深い学び」の実践をめざす。
- (3) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化し、3年間をベースとしたキャリア教育の計画を明確にして充実を図る。
- (4) 「生徒が来たい学校づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善をめざす。

※全出席率を毎年3%引き上げR4年度56%をめざす。 H29:49.4%、H30:47.7%、H31:48.3%、R2:50.0%、R3:53.0%、R4:56.0%

(参考:遅刻・早退を含む出席率H31:74.7%)

2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進(生徒自らが活気ある学校生活を送る)

- (1) 互いに違いを認め合う共生社会の推進に積極的に取り組み、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
- (2) 学校生活全般の活性化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓く力を育成する。
- (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的な生活習慣と規範意識を身につける。
- (4) SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)やSC(スクールカウンセラー)等の活用を通じ、生徒を主役に家庭・地域・外部機関との連携を図る。
※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した平成30年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率9.3%以下をめざす。

3 教職員人材育成と学校運営体制の再構築

- (1) 教職員の人材育成をベースに、チームワーク・ネットワーク等を駆使し「めざす学校像」実現に向けた目標の達成に取り組む。
- (2) 教職員の同僚性を向上し、業務の効率化を見直し「ミドルアップ・ダウン型」の組織作りとミドルリーダーの育成に取り組む。
- (3) 各種委員会の再編と活性化を行い、必要に応じ役割を明示・円滑な校務運営を推進する。

4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する

- (1) 地域との連携や地元中学校および保護者等への広報に努める。(Webの活用等を工夫)
- (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
- (3) キャリア教育の充実に外部人材(キャリアコンサルタント)や協力企業等を活用し、生徒の視野を広げ、希望する進路が実現されるように支援する。
- (4) 生徒の多様なニーズに合わせ、進路実現については様々機関との連携を活用してキャリア教育を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・「学校の授業はわかりやすく楽しい」の項目で、71.9%の生徒が肯定的に答えている。昨年度に比べ5.2%増加しており、この傾向を維持できるよう努める。</p> <p>【生徒指導】 ・「きまりや校則を守っている」の項目について、生徒・保護者とも70%以上が肯定的に回答している。また、教員の指導や学校の指導方針に肯定的な回答が生徒・保護者とも65%以上あり、教員の寄り添う教育の成果が現れている。</p> <p>・「悩みや相談に親身になって対応してくれる」の項目についての肯定的な回答が、生徒57.8%、保護者67.9%と比較的高い。SSW、SCの活用が有効に機能していると考えられる。</p> <p>【学校運営等】 ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」の項目で肯定的な回答が85.7%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の項目で肯定的な回答も85.7%であり、教員がチームとして教育活動を行う意識が醸成されつつある。</p>	<p>第1回(6/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校ではIDを配布してオンライン学習を行っている。高校の対応はどうか。 ・オンライン学習実施の際のWi-Fiの費用負担はどうか。 <p>第2回(11/6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、文化祭は生徒のみの参加で例年と違った取り組みだったが、創意工夫を凝らし充実していた。来年は保護者や地域の人々を呼び、さらに充実したものにしてほしい。 ・授業中にスマホを出している生徒が非常に少なく、生徒の興味・関心を高める授業が行われていることがよく分かる。 ・授業アンケートの結果から見て、授業内容は生徒のニーズに概ねかなっている。 ・災害時の安全確保の観点から、ソーラー発電等非常用電源を完備してはどうか。 ・災害時の避難場所として、新型コロナウイルスの感染対策も考えておいてはどうか。 <p>第3回(1/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では1人1台タブレットが配付され教員が活用について苦労している。タブレットに慣れた生徒がいずれ高等学校に入学するので、早めに対策を練っておいた方がよい。 ・部活動参加者についての評価が△となっているが、この状況のなかで、定時制の授業終了後に部活動をするのは難しいだろう。さらなる活性化を次年度の学校経営計画に入れる必要はないと思う。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現	<p>(1)能力・適性・興味・関心に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実践</p> <p>(2)進路選択のサポートを通じたキャリア教育の充実</p> <p>(3)「生徒が来たい学校づくり」と欠席・遅刻等の改善</p>	<p>(1)・ALの手法や体験的活動など、生徒の興味・関心を高める授業展開を工夫する。 ・生徒の特性を理解し、生徒に寄り添った指導で、生徒の自己肯定感を育む。</p> <p>(2)・生徒のニーズに応じた科目の選択や受講指導を実施する。 ・就職・就業指導の充実のため、ハローワーク等との連携や企業訪問による就職先の開拓を実施する。 ・ハローワークをはじめ、外部機関を活用し、生徒のキャリア形成の視野を広げる。 ・あらゆる「出会い」を通じて、入学から卒業までを通じて、卒業後も有用なキャリア教育の充実を図る。</p> <p>(3)・保護者との連絡体制・連携の充実を続け、課題の早期の対応を心がける。 ・生徒面談を随時行い、細やかな対応を図る。 ・「校内会議」「校内ケース会議」を活用し、組織として生徒情報を共有し、生徒支援を図る。</p>	<p>(1)・学校教育自己診断の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率を維持する。 (R1年度:66.7%)</p> <p>(2)・キャリア支援のための生徒の活動を充実させる。 ・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施(就職希望者の100%) ・進路決定率を前年度比2%増 (R1年度末66.7%)</p> <p>(3)・生徒・保護者への電話連絡・家庭訪問等を組織対応する。 ・出席率を前年度維持 (R1年度末74.7%)</p>	<p>(1) 学校教育自己診断の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率は71.9%で目標は達成。授業展開を工夫し、次年度も維持できるよう取り組む。(◎)</p> <p>(2)・応募前職場見学会や企業訪問を実施(学校幹旋の就職希望者の100%)(○) ・進路決定率(66.7%)(△) ・ハローワークやライセンス・アカデミー等の外部機関と連携し、生徒のキャリア形成の視野をさらに広げるよう取り組む。</p> <p>(3)・担任による連絡はもとより、生徒サポートチームを中心に、対応が困難な事案にも対応できた。(◎) ・本年度の出席率80.2%(◎)</p> <p>(R2年度末)</p>
2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進	<p>(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>(2)安全安心な学校環境の整備と多様な学びの場を提供</p> <p>(3)学校生活全般の活性化</p>	<p>(1)・校門前の「あいさつ運動」の継続と、授業の開始・終了の「起立・礼」を励行する。 ・身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、関係機関や専門家と連携し「豊かでたくましい人間性」を育む。 ・通信機器や情報機器等の適切な使用マナーを身につけさせる。</p> <p>(2)・生徒の活動場所の照度点検と安全な作業のための環境整備を継続する。 ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、SSW・SCを活用した校内体制の充実を図る。また、個々の教員とも連携し、子ども家庭センターや市町村関係部局をはじめ地域の組織との協働を充実させながら、安全・安心な学びの場づくりをめざす。 ・「いじめ」の対応についても上の校内体制で実施する。 ・災害時の備蓄の準備をする。</p> <p>(3)・生徒会活動やクラブ活動のさらなる活性化 ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成する。 ・文化祭等の学校行事へ保護者等にサポーターとして参画を促す。</p>	<p>(1)・授業環境の改善を年間の授業観察を通じ指導・助言する。 ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率3%向上 (R1年度は75.0%)</p> <p>(2)・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設改善する。 ・「校内ケース会議」等のさらなる充実(年10回以上)とあわせて「いじめ」対応の体制を継続する。 ・地域の支援組織等との連携、保護者の協力による家庭環境の充実で中退防止・進路実現を図る活動を行う。 ・校内の備蓄場所の整備及び備蓄を進める。</p> <p>(3)・部活動参加者の維持 (R1年度のべ34名/在籍88名) ・文化祭等での生徒の主体的活動の増加と保護者の参加者数の増加(R1年度 外部からの参加者92名 内保護者60名)</p>	<p>(1)・定期的に授業観察を行い、指導・助言を行った。(○) ・人権に関する設問の肯定的回答は64.0%で11.0%減(△)</p> <p>(2)・学校薬剤師・産業医と連携し、施設の危険個所を確認し、必要な措置を行った。(◎) ・SSW・SCを交え、校内会議3回、ケース会議3回、サポートチーム会議5回を実施した。(○) ・校内の備蓄場所の整備及び備蓄完了。(◎)</p> <p>(3)・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度当初の入部勧誘ができず。(一) (R2年度のべ13名/在籍75名) ・生徒会が主体となって、例年と違う形で文化祭を実施できた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外部からの参加はなし。(◎)</p>

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

<p>3 開かれた学校づくりと教職員人材育成</p>	<p>(1)開かれた学校づくりをめざした取り組み</p> <p>(2)「ものづくり体験学習」・オープンキャンパス等を通じた人材育成</p>	<p>(1)・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加を教員全体で取り組み、教育活動の成果を地域に発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺地域の清掃活動を継続する。 ・文化祭等の学校行事に近隣住民・中学校教員を招き魅力を発信するとともに、いただいた意見を学校運営に反映させる。 ・保護者の学校活動への参加を促進する。 <p>(2)・夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者、小中学校教員対象の「ものづくり体験教室」を全日制教員と協力して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季学校説明会を「ものづくり」を主体に全員で実施する。 ・研修および研究授業の充実で「学び続ける教員」を育成する。 ・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。 	<p>(1)・様々なイベントでの生徒参加を充実させ、学校Web等で情報発信を行い中学校へアピールする。(月2回更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の清掃等、地域との活動を充実(年5回) ・文化祭等の学校行事への外部参加数の維持(R1年度のべ92人) ・学校教育自己診断の「学校行事への参加」に関する保護者の肯定的回答率を3%増加させる。 <p>(2)・「ものづくり体験教室」参加者数の維持(R1年度30名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季学校説明会参加者を増加させる。(R1年度10名) ・研究授業を実施し、授業改善の工夫を行う。(年3回以上) ・ストレスチェック「同僚のサポート指数」を維持する。(R1年度:9.0) 	<p>(1)・新型コロナウイルス感染拡大により、多くのイベントが中止されたが、秋季発表大会は日程や形態を変えて実施し、多くの作品を出展した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブサイトによる情報発信を月2回程度実施した。(◎) ・新型コロナウイルス感染拡大のため、文化祭等の学校行事への外部参加不可(ー) ・学校自己診断の回答率(R1年度15.4%→R2年度28.5% 13.1%増加(◎)) <p>(2)・冬季学校説明会参加者数(R2年度:9名)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月24日～11月26日にかけて学校公開週間で公開授業を実施。授業見学に中学校教員13名参加。また教員2名による研究授業を行った。(◎) ・ストレスチェック結果による「同僚のサポート指数」が8.7で、指数が若干下がったが良好な職場環境を維持。(◎)
<p>4 働き方改革の推進</p>	<p>ア 労働安全衛生管理体制の充実</p>	<p>ア 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。</p>	<p>ア 月40時間以上の時間外勤務がある職員をできる限りなくす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁等を徹底し、特に問題となる時間外労働はなかった。(○)